

2024年3月5日  
株式会社SVPジャパン

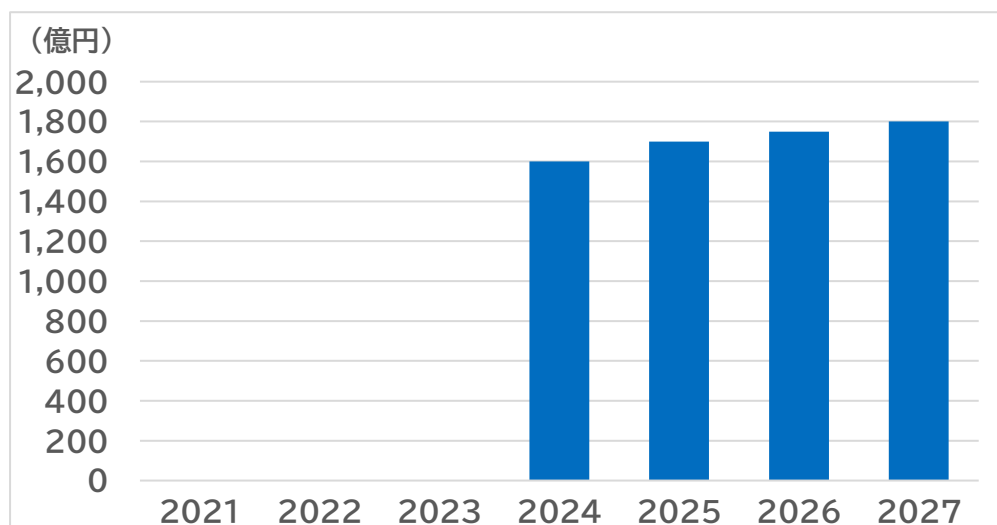
## SVP注目市場分析 「COVID-19ワクチン」を公開

～自己負担時代におけるCOVID-19ワクチンの課題と展望～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「COVID-19ワクチン-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

### ■ COVID-19ワクチンの国内市場



2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が変更され、COVID-19ワクチン接種は2024年度より定期接種と任意接種に移行した。定期接種は、主に65歳以上の高齢者を対象に自治体の助成金で費用負担が軽減される。一方、任意接種は全額自己負担となり、1万5,000円程度と高額な接種費用が市場拡大の課題となっている。現在、日本市場にはファイザー、モデルナ、第一三共、武田薬品工業、Meiji Seikaファルマの5社が参入し、オミクロン株JN.1系統に対応した3種類のワクチンを供給している。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が比較的落ち着いていることや、副反応に対する懸念もあり、接種意向は低迷しており、2024/25シーズンの市場規模は約1,600億円と見込まれる。今後の市場動向は、接種率向上のための啓発活動や費用負担軽減策に左右されるが、2027年度の市場規模は1,800億円に達すると予測されている。

## ■ COVID-19ワクチンの市場概況

2024年度よりCOVID-19ワクチンは、特例臨時接種から定期接種・任意接種へと移行し、市場構造が大きく変化した。定期接種は、季節性インフルエンザワクチンと同様に毎年秋冬に実施されることとなったが、COVID-19ワクチンの価格は依然として高く、自己負担額の高さが接種率の低迷に影響を与えている。マーケットシェアでは、特例臨時接種で圧倒的なシェアを占めたファイザーが引き続き市場の大半を占めている。一方で、副反応への懸念や国産ワクチンの選択肢が増えたことにより、今後はより多様な製品の採用が進むと考えられる。こうした中、政府や自治体、メーカーによる啓発活動や費用負担の軽減策が、接種率向上の鍵を握るとみられる。



## ■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、  
SVP会員様限定でございます。

## ■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。  
購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



## ■ 次回のテーマ

4月のテーマは「ファストファッション」と「スポーツウェア・シューズ」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

### [会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン  
代表取締役 : 橋本 雅  
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F  
設立年月日 : 1974年7月1日  
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス  
URL : <https://www.svpjapan.com/>

### [本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課  
[info@svpjapan.com](mailto:info@svpjapan.com)